

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：国際教養学部

学年：3

留学先大学：Università degli Studi di Roma “La Sapienza”

現在の学期：1st semester

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	8:15-10:00 Early modern history 12:00-14:00 Phoenician and Mediterranean Archaeology
火	10:00-12:00 Modern and contemporary history of Korea and Japan
水	8:00-10:00 Modern and contemporary history of Korea and Japan 10:00-12:00 Early modern history
木	8:00-10:00 Phoenician and Mediterranean Archaeology 16:00-18:00 Methodology
金	
土・日	

履修科目や近況について

科目選択は所属学部の授業を中心にヨーロッパ、特にイタリアにおいて現代社会が構成されていくに至る歴史を学ぶことのできるものを選択した。また制度上、留学生は学部をまたいで自由に授業を履修して単位習得することも可能なため、オリエンタリズムを学ぶ学部で東アジアの現代史についての授業も受講している。

各授業について、まず Early Modern History は週に二回の対面講義があり、学期末に筆記での最終試験が設けられている。学部一年生の授業でヨーロッパの中世から近世にかけての内容で社会の転換期において影響を与えた思想や行動を中心に学ぶ。加えて Methodology で論文の読み解き資料分析に必要な知識を学ぶ。

Phoenician and Mediterranean Archaeology では建築を題材としてフェニキア人や地中海の地形、文化がどのように人の生活に影響を与えてきたのかを学ぶ。週二回の対面講義を受け、個人でプレゼンテーションの発表と学期末に口頭試問が課せられる。

Modern and contemporary history of Korea and Japan では太平洋戦争において原子爆弾の使用に関する資料や倫理について学んだあと教授が用意した複数のトピックと立場が生徒に無作為で与えられ、ディベートを行うことで評価される。評価者も学生が担当し、論理的に説明できているか、適切な資料が用意されているかなどが評価基準となる。加えて学期末に筆記でのテストが課せられる。ディベートに参加したくない学生は異なる期末試験を受験し合格点をとれば単位が付与される。

空きコマには現地でできた友人と大学内の芝生で昼ご飯を食べたり、カードゲームをしたり自由に過ごせる場所が多い。また自習環境も充実しており充電できる場所を探して課題などに取り組む。

学外では留学先でしか経験することのできない体験や人とのつながりを大切にすることを心掛けている。観光地に訪れるだけではなく長期的に滞在することで時間に余裕があるからこそ訪れることができる場所や関りがある。特に自分自身にとって特別な関係は、家の近くにあるパブで一緒にお酒を飲む常連さんと店員の方々である。初めはフラットメイトと二人で時々食事をしたりする程度であったが何度も通ううちに声をかけてくれるようになり、今ではお互いの名前も憶えていつでもそのパブに行けば知り合いがいるような場所である。それだけにとどまらずローカルなレストランに招待してもらい、イタリア流の楽しみ方を共有していただいたことは今後も一生忘れることのない思い出である。ほかには授業で偶然仲良くなった現地の学生たちと学内で時間を過ごしたり外に出かけたりすることもある。最近では週末に現地学生たちと週末の夜に広場で集まって話すのが恒例になっており、そこで出会った人と親しくなることもある。留学当初は結局日本人との関りが多くなるのかと思っていたが、偶然にも出逢いに恵まれてどちらかといえば新しくできた友人は半分以上が現地に住む人で、なんとなく多くの人がイメージするような留学ができているように感じる。

最後に日本との違いについて気付いたことをいくつか記載しておく。まず大学の制度について特にイタリアでは口頭試問の形式が多い。その場で理解していることを言語化することが求められるため筆記による試験以上に授業に対する理解が必要だと感じる。一方で試験は複数の日程が用意されていることが一般的であり、一度失敗したとしても再受験の機会が設けられていることも事実である。授業に関する情報はシラバスから入手することができるが、シラバス自体には決まったフォーマットがなく、教授の裁量で書かれているため、わからないことがあれば直接連絡をするか、WhatsAppというSNSアプリで学部、コース、授業にまで分かれたグループが学生同士で作られているがあるので、そこに参加することですでに受講を終えた人などから情報を得ることもできる。

日常生活について、日本と大きく異なるのは治安と交通機関である。やはり治安は日本のほうが断然よく、夜に出歩いていると麻薬の密売人から声をかけられたり不審者に後ろからつけられないと感じたりすることもある。中心部に行くほどホームレスなども増えるため特に一人で出歩く際には注意する必要がある。ただ昼間は明らかに治安の悪い地域に自ら足を運ばない限りはそのような危険を感じることはない。次に公共交通機

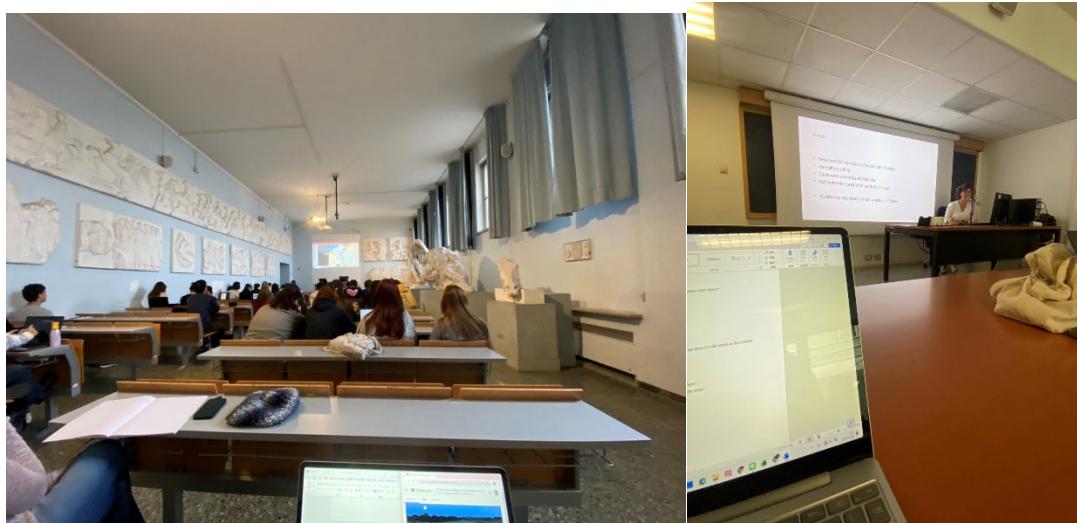
関については遅延することは当たり前でそれを踏まえた時間管理をする必要がある。またストライキなども頻繁に起こるため大事な用事などがある場合には事前に調べておいたほうが良い。加えて一概には言えないが、公共交通機関は外見から学生、観光客、もしくは経済的に自家用車を買う余裕がなさそうな人の使う手段という印象があり、やはりここでも治安の面でスリや盗難については気をつける必要がある。実際に注意喚起のアナウンスも流れている。

これ以外にイタリアで注意するべきことは言語である。イタリア人と話す際にはつたなくてほとんど伝わらないとしてもイタリア語をまず最初に使うことが重要である。日本ほどではないものの英語で十分なコミュニケーションをとれる人が多くないだけではなく、イタリア語に慣れないころに初めから英語で話しかけると嫌な顔をされることも多々あったため、それ以降はできるだけイタリア語で伝えることを意識している。よくよく考えるとこれは当たり前のことで、公用語でもない英語をいきなり話すのは相手に対するリスクに欠けた行動だと思い反省している。

最後に、イタリアだけに限られないが、日本と対照的な部分をあげるとするなら本当の意味で多くの多様性が存在しており、それを表現しやすい環境だという点だ。エスニシティ、ジェンダー、障がい、思想などマジョリティ、マイノリティに関係なく自由に表現しやすい環境であり、また多様性という社会問題について肯定、否定する人たちの意見も同等に聞こえてくる。一見衝突が起きてよくないことのように見えるが、その分隠れた差別や抑圧は少なく明確に可視化されていて多くの人がより良い社会を望む結果であるともいえる。一人の留学生で移民としての立場で心掛けるべきことはまず現地に住む人たちのライフスタイルに適応してリスペクトすること、そのうえで自身の良さ、違いを共有することだと考える。

授業の様子





フラットメイトの大量の食材で置き場のない冷蔵庫↓



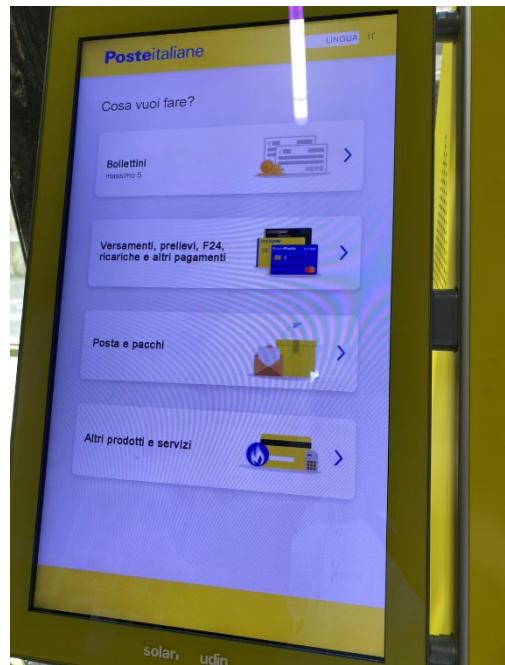
部屋から見た景色↓



自炊①、②



公共交通機関など



スーパーで売られているお買い得でおいしいワイン



道路のいたるところにある無料の水



大学すぐ近くで行われた国単位でのパレスチナに関するデモ



その他訪れた場所などの景色

